

経営比較分析表（平成28年度決算）

静岡県 静岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.66	100.00	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
709,041	1,411.90	502.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,678	1.74	2,688.51

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



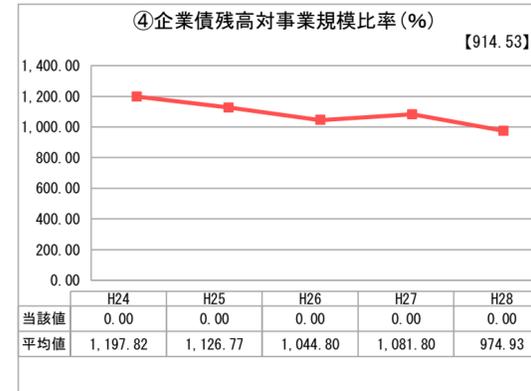
「単年度の収支」



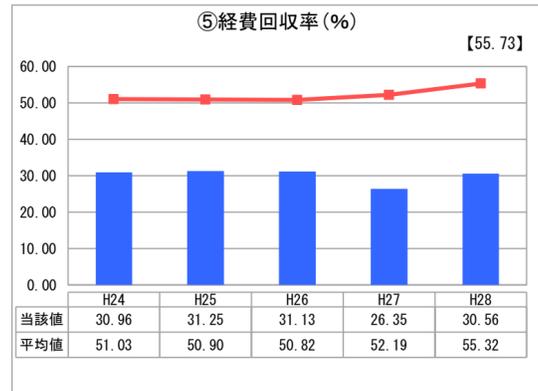
「累積欠損」



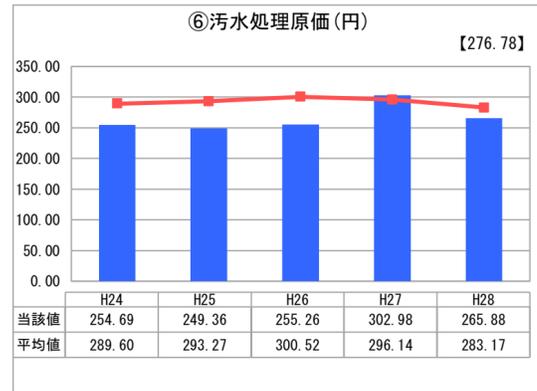
「支払能力」



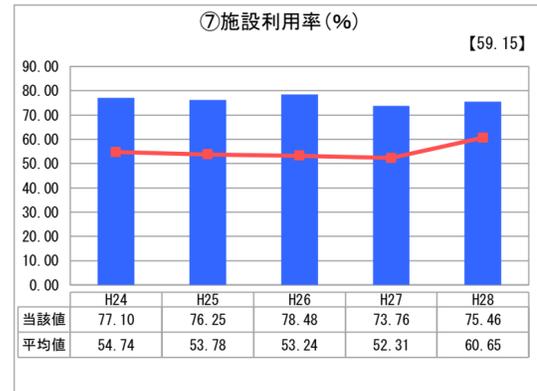
「債務残高」



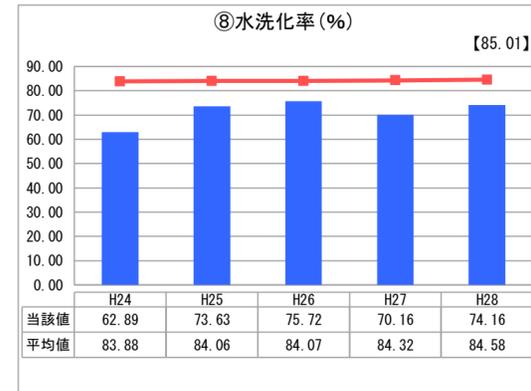
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

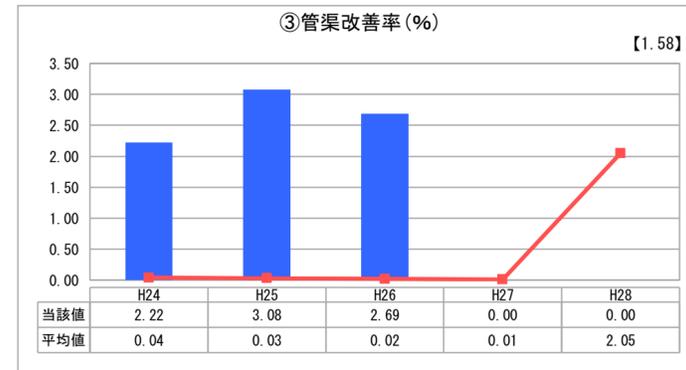
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、新規建設事業の影響により地方債償還金の負担が大きく、右肩下がりの状況であり、地方債償還金については、全て一般会計からの繰出金で賄われているが、今後も施設の老朽化による維持管理費の負担により増加する見込みである。経費回収率については、類似団体平均値と比較すると低いため、適正な使用料収入の確保に努め、農業集落排水施設未接続者への接続を積極的に勧め、水洗化率にあわせて向上を図る必要がある。一方、汚水処理原価は、類似団体平均値と比較すると低く、効率的な汚水処理が実施されていると併に、施設利用率も高い水準であることから、施設の利用状況や規模が適正であると判断できる。

2. 老朽化の状況について

平成26年度まで管渠改善率が類似団体平均値と比較して高い理由は、新規建設事業である富厚里地区の管渠工事によるものであるが、事業終了により、今後は機能維持のための修繕が主となっていく。市内には11箇所の処理施設があり、今後は新規建設事業の計画はなく、既存施設の維持管理が主たる業務となっていく。

全体総括

市内11箇所の処理施設は、中山間地域に位置しており、中長期的には人口減少が避けられない状況であるが、供用開始から間もない3地区については経費回収率と施設利用率の向上が見込まれるため、適正な使用料収入の確保に努めていく。今後は、既存施設の長寿命化を推進していくために、投資の効率化や平準化を踏まえた予防保全型の管理を行っていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。